

東北教区報 2023年12月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <https://nssk-tohoku.com/>シリーズ「東北の信徒への手紙」
奪い合えば足りず

分け合えば余る

司祭 テモテ 遠藤 洋介



教区は東北地方全体よりも大きな面積を持っています。それは非常に魅力であり同時に途方もない大きさを知ったことで脅威にも感じました。

お互いに足並みを揃えて同じ方向（目標）に進んでいくということは、笹森主教も仰っていました。夫婦になつていくようなものです。今は、双方見つめ合つてお互いの色々な面を確認している状態ですが、両教区とも宣教協働を重ねて、その目線の方向を少しずつ前に向け、最終的には同じ方向を向いて歩んでいくことです。

「人々は皆、食べて満腹した。そして、余ったパン切れを集めると、十二の籠いっぱいになった。」（マタイ14章20節）
10月18日から19日に函館で北海道教区との合同教役者会が行われました。宣教協働区として共に歩み始めたばかりの両教区にとって、とても有意義な時間が与えられました。それぞれ教区内各教会の紹介をし、お隣の教区とはいえず、お互いに知らないことばかりでした。東北教区も広大な面積を誇っていますが、北海道

イエスさまは5千人の給仕の場面で、弟子たちの手で人々に食べ物を与えるように促しました。そして結果的に大群衆のお腹は満たされ、なおも余ったと記されています。この群衆に「さあお腹がす

いた人はここまで取りにおいでください」と言つたとします。おそらく、お腹をすかせた多くの人はその給仕所に群がり、混雑し、奪い合い、暴力に発展する事態になつたかもしれません。弟子たちをそれぞれに群衆たちのもとへまわらせて、限られた食物を【分け合う】ということがこの場面では大切だったので。先日もある国で、新しいスマートフォンが発売日に暴力による奪い合いが起きました。足らないから奪い合うのではなく、奪い合うから足らなくなるのです。奪い合いというのは【自分（たち）だけは】という気持ちから生まれます。多くの戦争もこの【自分（たち）だけは】という気持ちから始まっています。

他の教区と一つになると聞いた時には多くの心配事があります。自分たちの教区はどのように変化してしまうのか、信仰生活や教会生活にどんな影響が出るのか、主教座はどのになるのか、分担金はどうか、教役者は東北から出ていくのか、一緒にいる教区の教役者が来るのか、教会

の管理体制はどうなるのか、細かいことまで考えるとキリがありません。心配事が増えると【自分（たち）だけは】という気持ちが生まれ、宣教協働ということ自体が非常にマイナスなことになってしまいます。お互いの教区が大切にしていく色々なことやものを奪う、与えるという発想ではなく【分かち合う】んだと考えていけば自然と宣教協働や合併という不安な道も神さまの愛によって明るく照らされるように思います。

どのように変化していくのかは何もわかりません。きつと良いことも不都合なことも起こると思います。しかし複数の教区が一つになることで、足らなくなるというマイナスな考え、今よりもあらゆることが縮小され、制限されてしまふと考えるのではなく、より広くより豊かで多彩な体制になると考えたいものです。そして、互いに持つたくさんの良いことを分け合える。素敵な夫婦のような宣教協働の道歩んでいけたらと願っています。

(山形聖ペテロ教会牧師)

拡大展望会議開催

教区展望会議メンバー セント・クリストファー 赤坂 聖矢

10月8、9日、「拡大展望会議」を開催いたしました。5年・10年展望会議の流れを受け2019年に教区展望会議が組織されてから、宣教方針策定、実践の呼びかけを促す活動の中で「活動は現状に伴っているか」「先を見据える中でどのような活動が望ましいのか」、内にあるメンバーには見えづらくなっている部分にぜひ意見を伺いたいとの思いから開催に至りました。東北教区から12名、北海道教区からも1名にご参加いただき、展望会議7名を加えた総勢20名で会を持ちました。

「展望会議の歩み、開催の経緯」を話す中で今抱える課題を共有し、その後「展望会議はどう見えているか」という率直な意見を伺いました。特にニュースレターについては、発足当時からほぼ毎月発行し50号近く続いていることに対しご嘉賞いただいた反面、扱っている規模が大きく内容や宣教方針自体がぼやけてしまっていることへの指摘、そもそも手に取ったことのない方や他の配付物に紛れてしまっている現状など、今後の内容を考える上で貴重なご意見をいただきました。

その後「教区、教会、私たちはどう在るべきか」というテーマのもと意見交換を行い、まずは個人々々での取り組みを紹介していくことや、仲間がいることを意識してもらうことが大事だと話されました。その中でも、宣教方針に通ずる新しく始めたこと、これまで続けてきたことを共有していくこと以上に「動きを止めないこと・継続していくこと」の重要性が示されました。

今回の会議を通して、展望会議自体が改めて宣教方針を考える、原点回帰する機会になりました。これまでもこれからも、その活動のそばには多くの信仰の仲間がいることを改めて認識する機会となり、その思いを胸に今後も仲間とともに活動を続けていきたいと思っています。

東北教区・北海道教区 合同教役者会

司祭 ドミニコ 李 賛熙

10月18日(水)・19日(木)、函館にて合同教役者会が開催され、東北教区8名、北海道教区13名が参加しました。

1日目はホテルを会場に、北海道教区下澤昌司祭司式による開会礼拝、北海道教区笹森田鶴主教と長谷川清純主教からの歓迎・感謝の挨拶でプログラムが始まりました。

セッション1では、初めに北海道教区大町信也司祭から両教区組織図に関する説明があり、続いて東北教区司祭たちから東北の各教会や施設の紹介をいたしました。

夕食後、セッション2では

北海道教区の皆さんから北海道の教会を紹介していただきました。今まで代祷表で目にして名前しか知らなかった教会の、具体的な様子を知ることができるといい時間でした。就寝前の祈りを共に献げ、1日目が終わりました。

2日目は場所を函館聖ヨハネ教会に移し、セッション3では八木正言司祭から、チーム北国のこれまでの報告や、今後の働きを進めるためのロードマップ、ミッション・ステートメント案に関する提起がなされ、4グループに分かれて意見交換と発表をいたしました。笹森田鶴主教司式・長谷川清純主教説教で聖餐式が行われ、昼食後、プログラムを終了しました。この日の献金は秋田の大雨洪水被災信徒支援のために捧げられました。

今回の合同教役者会では、今後の歩みを進めるにあたり、両教区教役者がお互いに知ることが出来たことが一番うれしい成果だと思います。今後はこの働きを信徒・教役者全員が自分のこととして積極的に関わり、一緒に歩むことが大切だと思います。



札幌キリスト教会



1892年7月18日創立、現在131周年。主教座聖堂としての役割を担い、札幌駅より徒歩約7分、北大の隣接地で宣教している。現聖堂は2000年献堂。毎月第1主日の礼拝ではその月の誕生者・逝去者のために祈り、愛餐会では誕生会を行う。また同時刻より「こどもの教会」も行われる。第2主日は教会委員会、第3主日には婦人会例会。月2回の婦人会お仕事会、木曜にはカフェ・焼き菓子等の「よりみちマルシェ」、金曜には留学生への給食支援として「金曜ランチ」といった活動も行われている。

北海道教区

クララ 吉谷かおる



夏から秋へと季節が進む中「チーム北国」のミーティングも回を重ね、7月から10月までの間には「宣教協働」広報「組織」「財政」の4つのセクションに参加する拡大メンバーが決まり、セクション・ミーティング（オンライン）が行われました。また、宣教協働の目的と方向性を共有するための「ミッション・ステートメント」の作成に向けて検討を続け、東北教区と北海道教区の合同教役者会（10月18日・19日）で、フィードバックを受けました。

11月の定期教区会には、「チーム北国」のタスクの追加、名称変更、メンバー拡大、

期間延長についての議案と、両教区の宣教協働・教区再編に向けてのミッション・ステートメント採択についての議案の二つを提出します。また会期中両教区の会場を30分間オンラインで繋ぎ、交流の時間を持つ予定です。

東日本宣教協働区協働委員会（北海道・東北・北関東・東京4教区）では「チーム北国」の活動・協議内容報告とミッション・ステートメント採択議案を資料として提示しました。11月の宣教協議会3日目の「宣教協働区アワー」では、全体での発表と質疑応答の後、東北教区と北海道教区の参加者は、小グループでの昼食と自由行動で親睦を深めます。9月にオンラインで交流の時を持った女性参加メンバーたちは、実際の出会いを楽しみにしています。

夏以降、教役者会（東北）、拡大展望会議（東北）、教区婦人会総会（北海道）などでの出会いの機会もありました。教区報でお互いに自教区の教会を紹介する連載も始まり、これからますます広く深く、知り合うことができそうです。



ウトロ平和祈念館

「2023日本聖公会人権セミナー」に参加して ～ウトロからの叫び～

教区人権担当 司祭 ヤコブ 林 国秀

去る10月2日・3日の両日、日本聖公会人権セミナーが、京都で、実に3年ぶりに対面形式で開催され、約30名が全国から参加されました。1日目は平安女学院のホールで、2001年に発覚した「H元牧師性暴力事件」に関する京都教区による二次加害検証報告と日本聖公会の

「セーフ・チャーチ・ガイドライン」への取り組みについて担当者から経過報告がありました。前述の事件については各教会に報告書が届いていますので、詳細についてご確認いただければ幸いです。担当者や京都教区主教は、被害者の声に耳を傾けなかった失敗と反省の報告として、ぜひ目を通していただきたいと話されました。日本聖公会が人権を尊ばない状況や人権を踏みにじるような事件を決して起こさないことは勿論ですが、そのようなことが起きるはずがないという思い込みによる被害者軽視や教会や教区が二次加害者となっていくことも決してあってはなりません。そのための「セーフ・チャーチ・ガイドライン」の策定であり、抑制の意味も含むものです。万一ハラスメント事象等に第三者として遭遇した際、それを知りながら声を上げない、あるいは救いの手を差し伸べないということがあれば自身も二次加害者となりうるということも学びました。

そして2日目は宇治市ウトロ地区でのフィールドワークとウトロ平和祈念館を見学し

学びの時を得ました。ウトロ地区は1940年から日本政府が推進した「京都飛行場建設」に集められた在日朝鮮人労働者たちの飯場跡に形成された集落です。日本の敗戦により工事が中断されると、朝鮮人労働者たちとその家族は、その場に使い捨てのように放置されました。終戦後、多くの労働者は帰国を希望しましたが、様々な事情により帰国することが叶わず、行くあてもないまま自らの手で不毛の地を開拓し、ウトロで互いに助け合いながら生きてこれました。行政による上下水道や道路等のインフラ整備もなく放置され続け、さらにこの状況は蓋をされたように広く知れ渡ることありませんでした。ウトロを救うべく、ようやく韓国政府が立ちあがったのは2007年のことでした。人権と平和の大切さ、共に生きることの意味を伝えていく場所となるようウトロ平和祈念館が建てられ、その役割を担われています。皆さまも是非一度お訪ねください。最後にセミナーの準備をされた京都教区の皆さまに心から感謝を申し上げます。

追悼 ヨハネ 小野 俊作 司祭

「小野司祭さんとの 忘れられない思い出」

司祭 ピリポ 越山 健蔵



小野司祭さん逝去の知らせが突然メールで届きました。画面を見たまま一瞬呼吸が止まりました。つい2週間ほど前に小野司祭さんがコロナの感染から回復され、デイケアセンターに移られたと連絡を受けたばかりでした。体調の急変に何があったのかと思いを巡らしました。

ここ何年かの間に教区牧師の訃報が続き、こと今年においても斉藤政信司祭、佐藤真実司祭、そして9月29日、ヨハネ小野俊作司祭さんが天に召されました。また一人大切な人が地上の生涯を終えら

れ、神様の元へ旅立たれました。別れは突然にきます。言葉に言い尽くせない寂しさに包まれています。仙台基督教会での勤務時代、小野司祭さんに見いだされ、多くの方に助けられ、育てられ、今があります。

小野司祭さんは私の人生を大きく変えてくれました。聖職を志すまでの調理師時代、何度も訪ねて来られ、教会への復帰を優しく、時には熱く語られました。心は揺れましたが、この人についていこうと思ったことは、今だから言えるような気がします。

一番の忘れられない思い出、それは私の常置委員会の伝道師認可の諮問(面接)での出来事です。ある委員さんが、今では考えられませんが、私の調理人という経歴に疑問符を投げかけました。「来るころ間違えた」と思い、とっさ

に席を立とうとしたその時、両脇に座っていた推薦牧師の小野司祭さんに右足を、教会委員の瀧口民郎さんに左足を踏んづけられて立つことができませんでした。「越山君！今は何も言うな、黙ってる！」と小野司祭の耳打ち。このことがなかったら、「司祭 越山 健蔵」は生まれていませんでした。

人生の転換は出会う人によって、右にも左にも行ってしまう。今は神様と先達者から最高の人生を与えられたと感謝でいっぱいです。

そんな面倒見のいい小野司祭さんの居間は、いつも青年で溢れていました。小野司祭さんが居ようと居まいと、また寝室で休まれていても、司祭館は人が絶えることはありませんでした。そういう若者の胃袋を満たすため、冷蔵庫は補充してもいつもあつという間に空っぽになりました。静子夫人の苦労が偲ばれます。そういう私も若者同様に、見習い時代はほとんど小野家で食事をしていました。今もって何も恩返しが出来ておりません。今は小野司祭

さんの笑顔を思い浮かべながら、たくさん忘れられない思い出を宝物として、大事にしていきたいと思えます。小野司祭さんありがとうございました。安らかにお休みください。

常置委員会報告 (第13回・10月16日)

報告事項▼主教動静と今後の予定について・ヨハネ小野俊作司祭逝去と11月4日の記念式実施を報告▼常置委員長報告・「チーム北国」に係る教区会議案について報告。会計担当者会における次年度予算案及び分担金について理解を得た旨報告。▼主事会議・教区財務状況報告。協議事項▼青年グループからの宣教活動援助金申請を承認。▼人権セミナー参加費の研学資金申請を承認。▼2024年度一般会計予算案を承認。▼礼拝協力者の手当見直しを適当と認め承認。ガバナンス上「囑託教役者に関する覚書」を次期教区会期に交わすことを申し送ることで合意。▼次期教区会の議案及び審議順を確認。北海道教区との共同議案提出

について確認。研修内容について協議継続。初日19時から30分、双方の教区会会場をwebで繋ぎ、宣教協働について5分程度のプレゼンテーションを実施。続いて、両教区の代議員から、相互に「挨拶」を送る形で交流の時間を持つことを確認。

東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

◇10月28日(土)に、「第7回被災地巡り(閉上・荒浜コース)」を実施しました。一行は5名。一時天気模様が心配されましたが、雨も降らず「うちんちゃん号」は順調に走りまわりました。「特養老人ホームうらやす跡」、「名取市震災復興伝承館」、「荒浜小学校跡」と巡り、昼食は「リゾート施設アキアイグニス仙台」に寄りました。今残されている震災遺構と新しいリゾート施設の狭間で、復興途上の地域の行方を考えました。◇10月11日(水)「水曜喫茶支援」は、スタッフを含め5名の参加で実施されました。各方面からの差し入れに感謝いたします。(リーダー)

シリーズ
わたしの道の光

「いつも喜んでいなさい。」

どんなことにも感謝しなさい」

若松諸聖徒教会

マリア 小林 由美子



洗礼から12年を経て信仰をあらわす機会をお与えくださり、感謝致します。

うまく言葉を紡げますように。

私は環境系の活動で矢萩栄司司祭様と出会い、娘が聖愛幼稚園入園となりました。保護者会で説教に触れ、考えさせられ、教会の礼拝へと繋がりました。4月のある日、加藤博道主教様からアナスタシア・立ち上がるについて説教があり、断絶された過去には必ず神様のお支えがあったことに気づかされました。苦しかった記憶が温かく書き換えられ、4月が誕生月であるこ

とも相まり信仰へと踏み出す大きなきっかけになりました。それから今に至るまで、信徒の方々のさりげない思いやりとお支えが私の信仰生活を豊かに導いています。

現在私たち信徒は教会建築にむけた動きの中にあり、神様がお与えになる教会の意義や働きについて考え、深めております。私たち生活の営みの中に、食糧支援に並ぶ大学生、勉強スペースを求めさような中高生、さまざま養護を失いつつある大人や子どもたち、そして卒園児の取り返しの付かない深い悲しみなど、小さくされた方々の姿があります。身近にみせられる一つ一つの姿は、繋げられ神様がお求めになる教会の働きをお示しくださっているように感じています。

ポーランドにある築500年の木造の教会では、信徒の家庭で準備されるクリスマス晩餐のテーブルに不意に訪れる旅人のために「席とお皿が用意されてある」そうです。疲れ空腹な旅人は覚えられ用意されてあるのです。

私を導いてくださった諸聖

徒教会の信徒の方々には「弱さ」を開示できるさりげない優しさがあります。教会を与えられることを願いながら、力を合わせ「いつも喜び感謝しながら」を胸に、小さくされた時こそ思いだして頂ける「用意された席とお皿」のよな教会でありたいと願っています。

中高生プログラム

開催のお知らせ

青年グループでは、2024年1月13日(土)に仙台を会場に中高生プログラムを開催いたします。

内容は教区の主教座である仙台基督教会を訪問し、知っているようで知らない、教区の中心教会について学びを深めること。そしてその後にはお楽しみのフィールドワークとして、仙台市天文台を訪れて、学びと交わりの時をもちたいと考えています。

詳しい内容・申し込み・問い合わせは、各教会に送られる、ポスターや案内を参照してください。沢山の参加をお待ちしています！

(青年グループリーダー)

主教コラム



10月18日、函館で宣教協働の基に、東北教区・北海道教区合同教役者会が開催され

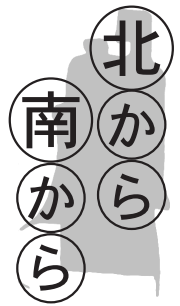
たことは大きなお恵みでした。そこに出席されてお元気だった函館聖ヨハネ教会囑託聖職ダビデ藤井八郎司祭さまが、10月27日82歳8カ月で天に召されたとの訃報が入り、驚きました。再会を喜んだばかりでしたのに。私は、31日函館での葬送式に参列して、司祭さまの平安をお祈り申し上げました。

函館聖ヨハネ教会と青森聖アンデレ教会とは、これまでに少しばかり行き来していましたが、藤井司祭さまが来青された後、青森の信徒たちが函館の教会バザーを訪ねたり、かつて松丘聖ミカエル教会での行事「聖歌を腹いっぱい歌う会」には、植松誠前北海道教区主教さまも参加されて、いっぱい歌われたそうです。確かに青森と函館はお隣の教会です。

11月4日、9月28日に89歳7カ月の地上でのご生涯を終えられ天に召されたヨハネ小野俊作司祭逝去者記念聖餐式を大館聖パウロ教会にてお献げし、敬愛する大先輩とお別れしました。赴任先の秋田、仙台、大館、青森、釜石だけにとどまらず、弘前、八戸、盛岡から、また遠く名古屋からのご友人も駆けつけた85名の参列者が、小さな聖堂に身を寄せ合いました。神様の大家族が、愛と一致と平和の象徴である聖餐式を献げて、聖職としての小野俊作司祭さまのお働きを追想して心から深く感謝いたしました。

東北教区にはますます教役者がいなくなりました。極めて深刻な事態ですが、今教区会に提案されている東北教区・北海道教区合併の目的を明確にする「ミッション・ステートメント2023」に光が見えます。「弱さの中で福音を宣べ伝え、行き詰まりの中で宣教的視点を転換する福音の実践」という宣言がなされています。私たちの希望は福音にこそあります。

(教区主教)



松丘聖ミカエル教会

元松丘聖ミカエル教会信徒、元教区会信徒代議員、松丘保養園では自治会副会長を務められたヨハネ藤崎陸安さんが、9月14日、天に召されました。80歳のご生涯でした。最後は、東村山市の国立ハンセン病療養所多磨全生園で、全国ハンセン病療養所入所者協議会事務局長を務めていました。2024日本聖公会カレンダーの2月に最新の写真が載ります。松丘を覚えてお祈り頂ければ幸いです。

鉛山聖救主礼拝堂

「平和の祈り」は例年8月6日に固定していましたが、皆さんが参加しやすいように、今後は8月第2土曜日とすることに決定しました。来年は8月10日です。

10月2日、鹿角にゆかりの深い先人を紹介する資料館「鹿角先人顕彰館」主催の

フィールドワークでの説明を行いました。かつての地元企業跡地などと共に十和田湖周辺の近代史遺産の一つに選定され、当日は16名の来訪がありました。この礼拝堂は2代目であることや奏楽の天使の絵、栄光の十字架などを説明しました。

仙台基督教会

日曜学校では奉仕をしてくれるスタッフも増え、昨年から恒例化した「収穫感謝礼拝」や今年新しい試みの「教会探検」など、なんとか子どもたちにも楽しんでもらい、少しでも多くの子どもたちに教会に来てもらおうとスタッフ全員でアイデアを出し合い、イベントを開催しています。

教会探検では、普段は見られない鳴っている鐘や史料室を見学したり、多くの子どもや保護者の方たちと楽しい時を過ごしました。

仙台聖フランシス教会

日曜学校では10月29日に「ハロウィーン」を行い、子ども50名、大人30名が、子どもたちはもちろん、大人も好

きな仮装をして参加してくださいました。教会で礼拝をおささげした後、「トリック・オア・トリート」の合図で、可愛い仮装をした子どもたちは園庭に隠してあるお菓子を探しに出て行きました。全員お菓子をもらった後、記念撮影、ゲームをして楽しみました。みんな笑顔で、素敵な良い時間を過ごしました。

福島聖ステパノ教会

10月22日当教会で、磯山聖ヨハネ教会との合同礼拝が行われ、お天気にも恵まれて、良い一日を過ごすことができました。

当日は、「ふくしままちなか音楽祭」があり、当教会は「祈りの音楽」の会場として、多くの市民が教会に足を運ぶ機会にもなりました。私たちも磯山の方々と歓談しながら、それぞれが演奏を聴いたり、楽しい時間となり、今後お互いに交流を続けていくことを確認し、散会しました。

郡山聖ペテロ聖パウロ教会

10月の日曜学校は、朝9時からの子ども礼拝の後、教会

菜園での芋掘りです。大きく育ったさつまいもなど、たくさん収穫物に子どもたちは大喜びです。

その後、この日集まってくださった信徒の皆さんのご奉仕により作られた芋煮汁に、子どもたち、保護者、信徒の皆さん総勢20人が一緒に舌づつみ、楽しい時間となりました。

11月からは、クリスマスの準備、リース作りや飾り付けなどを一緒に行う予定です。

永遠の平安

ジュリアーナ 古澤 トシ

(10月4日・若松)

マルタ 佐藤 タケ子

(10月27日・仙台)

マリア 小西 八重子

(11月7日・仙台)

12月逝去者記念聖餐式

12月6日(水) 午前10時

於 主教座聖堂

司式・説教 長谷川清純 主教

司祭 アタナシオ 笹森 伸兒

2019年12月1日逝去

宣教師 Miss Ethel H. Cornell

1920年12月5日逝去

司祭 イザヤ 櫻井 享

2010年12月6日逝去

伝道師 ヨハネ土田 八九十

1924年12月8日逝去

司祭 ヤコブ 木村 光二

1979年12月9日逝去

宣教師 Miss Anna Theodora Wain

1917年12月12日逝去

司祭 John Cary Ambler

1946年12月13日逝去

主教 テモテ 中村 信蔵

1969年12月16日逝去

司祭 Frank Hallett Jr. Moss

1963年12月19日逝去

司祭 近重 利澄

1934年12月22日逝去

司祭 コルネリオ 斎藤 雄一

2017年12月22日逝去

司祭 片田 葛五郎

1956年12月24日逝去

主教 ウイリアム 村上 達夫

2016年12月28日逝去

司祭 ステパノ 大矢 敬香

1942年12月30日逝去

司祭 ステパノ 奥村 亮

1948年12月31日逝去

司祭 ヨハネ 桜井 健

1979年12月31日逝去

